

地球のワクワク！発見しよう こどもエコクラブ

私が主役！なかまと一緒に未来をつくる

2018 年度 事業実施報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局

<後援：環境省>

はじめに

2015年に国連で採択された持続可能な世界を実現するための17のゴールからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」は、今や多くの企業や団体に認知されています。既存の活動をSDGsの項目に単純に当てはめるだけではなく、経営戦略に組み込んで本気で取り組む企業も増えてきました。社会全体が持続可能な方向に舵を切りつつある今、それを推進するための人づくりはますます重要になってきています。

2018年4月に閣議決定された第五次環境基本計画では、SDGsや温室効果ガスの実質排出ゼロを目指す「パリ協定」を受けて、新たな文明社会に向けた大きな考え方の転換(パラダイムシフト)が謳われています。そのカギとなるのが、各地域がその資源を活かした自立・分散型の社会を形成し、その特性に応じて補完し支え合う「地域循環共生圏」です。

子どもの自主性を尊重し環境学習・環境活動に取り組むこどもエコクラブは、20年以上にわたり持続可能な社会づくりを担う人づくりを地域の大人がサポートしながら進めてきており、まさに「地域循環共生圏」の創造に向けた取り組みであるといえます。2018年度は1,802クラブが登録し、101,086人の子どもたちが全国各地で様々な環境活動に取り組みました。68の企業・民間団体が協賛、寄附およびプログラムの共同事業等でご支援くださったほか、510の地方自治体に地域事務局として地域活動を支えていただきました。

こどもエコクラブでは、クラブから提出された活動レポートや壁新聞に専門の先生からのコメント・助言をお返しすることでクラブの活性化・活動のステップアップを支援しています。また、アンケートやヒアリング等を通じて把握した各クラブの特徴やニーズをデータベース化し、それに基づききめ細かなサポートを実施していきます。

2018年夏、一人のスウェーデン人の少女が地球温暖化への早急な対応を求めて抗議行動を開始しました。この行動に世界中の若者が共鳴し、2019年3月15日には、「未来のための金曜日」と銘打って日本を含む120以上の国や地域で一斉にデモが行われています。これからの地球を担う若者たちが自らの意志で行動を起こす姿はとても頼もしく感じます。未来を託す次世代の大人たちを育て、その輪を更に大きく広げていくために、こどもエコクラブ全国事務局は、多様な組織や人の参画と協力のもと、全国のクラブの活動を支援するとともに事業を継続・発展させる取組を2019年度以降も推進して参ります。

引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

こどもエコクラブ全国事務局



目次

◎ はじめに	2
◎ こどもエコクラブのビジョン・ミッション	4
◎ 2018年度のハイライト	5
◎ 事業報告	9
○ 環境学習・環境活動に取り組むきっかけづくり	9
(1) こどもエコクラブの認知度向上	
(2) こどもエコクラブへの登録促進	
○ 環境活動・学習の活性化促進	15
(1) ウェブサイト・メール等を通じた情報提供	
(2) 教材・プログラムの提供	
(3) 活動レポート、壁新聞へのフィードバック	
(4) 企業との協働推進	
(5) All Japan Youth Eco-club	
○ 環境活動・学習の意欲の向上、ステップアップ	22
(1) 地域活動活性化	
(2) 全国規模での交流と顕彰	
(3) 他団体からの表彰	
◎ 地域事務局の取組事例	27
◎ 協賛・協力いただいた企業・団体	32
◎ 登録データほか	33
◎ エコ活コンクール 受賞作品	37

◎ こどもエコクラブのビジョン・ミッション

「こどもエコクラブ」は以下のビジョンとミッションを掲げ、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的として、幼児(3歳)から高校生までの子どもたちを対象に、子どもたちの自主的な環境活動をサポートしています。

◎ ビジョン(=理想の未来)

だれでも参加できるこどもエコクラブが学校、市民グループ、企業等各主体をつないで、持続可能な地域社会に向けて活動を行っている。

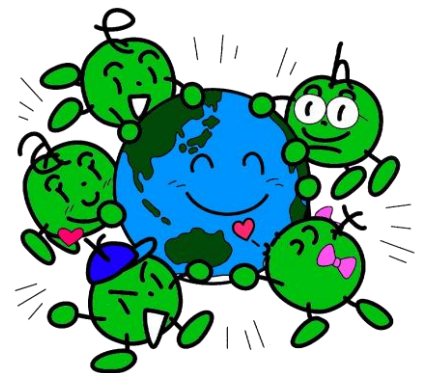
◎ ミッション(=なすべきこと)

1. 環境学習・環境保全活動を通じて、子どもたちの「未来を創る力」を育てる。
2. 地域において環境に関心を持つ人を増やし、環境保全を促進する。

上記のビジョン・ミッションの下、

- 環境学習・環境活動に取り組むきっかけづくり
- 環境学習・環境活動の活性化
- 環境学習・環境活動の意欲の向上、ステップアップ

の3つの柱を掲げて様々な活動に取り組んできました。



2018年度のハイライト

◎大阪 ATC こどもエコクラブ交流会

平成30年11月3日(土)、おおさか ATC グリーンエコプラザで、日頃の活動を発表する壁新聞セッションを通じて交流し合う「大阪 ATC こどもエコクラブ交流会」を開催しました。大阪府内のこどもエコクラブをはじめ、京都府・滋賀県・徳島県の計10クラブが参加しました。

第一部では、参加クラブが壁新聞や活動レポートを活用して発表・報告し、お互いに取材しあって有意義な交流を行いました。第二部の全体セッションでは、「1. 小学生と中学生が自慢したい活動」、「2. 活動中に困ったこと」、「3. 困ったことを解決するためにはどうすればいいか」という3つの議題について、様々な意見を出しあい、最後に、子どもたちが話し合った結果を「大阪こどもエコクラブ宣言」としてまとめました。

【大阪こどもエコクラブ宣言】「自然を守ろうとする気持ちを広げていこう」

開催場所のおおさか ATC グリーンエコプラザは、環境について楽しく学べるエコの拠点であり、今回の交流会には複数の企業がブースを出展してくださいました。子どもたちが出展企業・団体に取材に行くだけでなく、企業・団体も子どもたちの活動取材することで、子どもたちと大人の交流が深まりました。

民間企業と協働し、都道府県の枠を越えてクラブが交流するイベントを開催することは大きな挑戦でしたが、おおさか ATC グリーンエコプラザ様との共催により大成功を収めることができました。次回は、企画段階から自治体も加わったより緊密な連携の下での開催を計画しています。また、意欲のある自治体・企業と協働し、このようなスタイルの交流会を他の地域にも広めてまいります。



◎ 全国一斉活動「エコマーク・クエスト」

クラブがそれぞれ自分たちの好きな活動をするのがこどもエコクラブですが、「登録したけど、何をしたらいいかわからない…」というクラブもあります。そういったクラブの活動のきっかけにするとともに、10万人のメンバーが同じ活動に取り組むことで、こどもエコクラブとしての一体感の醸成と、こどもエコクラブのパワーをアピールすることを目的として、全国一斉活動「エコマーク・クエスト」を企画、実施しました。この活動は、東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げる「東京 2020 参画プログラム」として位置づけ、広く展開しました。

【実施期間】平成 30 年 10 月 1 日(月)～11 月 16 日(金)

※3R 推進月間(10 月)に合わせて実施

【ミッション】

身のまわりの中にあるいろいろな商品の中から「エコマーク」がついたものを見つけよう!!

【ねらい】

- ・エコマークがどのようなものにつけられているかを知り、どこが環境に配慮されているのかを考えるきっかけとする。またそこから、環境に配慮した商品選択の大切さを実感してもらう。
- ・子どもたち自身が活動することに加え、家族や友達など周りの人にも呼びかけて活動の輪を広げ、たくさんの人に環境に配慮した消費活動に関心を深めてもらう。

【実施結果】

- ・参加メンバー数:2,754 人
- ・活動に誘ったメンバー以外の人数:551 人

1. みんなが見つけたエコマーク



作業服



消火器



蛍光ペン



デパートの紙袋

2. 取組事例紹介:品川区立山中小学校おやこエコクラブ

学校行事の一つとしてチャレンジ。エコマークについて学習してから、学校の周辺を歩きながら、エコマーク探しをしました。



自動販売機の土台に再生プラスチックが使われているのを発見しました!!

こどもエコクラブでは来年度以降も、全国のクラブのメンバーが一斉に取り組む活動を企画、実施してまいります。

◎ プロントコーポレーション&こどもエコクラブ緑の活動

株式会社プロントコーポレーションより継続的な支援を受けて、社員の方とこどもエコクラブと一緒に活動する「緑を守り・親しむ環境活動」を実施しています。

2018 年度は、プロントコーポレーションが製作した、ゴミとして捨てられているコーヒー豆のかすを活用した環境にやさしい植木鉢「CAFÉ TSUCHIKO」を 300 個ご提供いただき、5～6 月にかけて富山県高岡市内の 22 の幼稚園・保育園クラブがグリーンカーテン活動を行いました。

高岡市では、以前より市内の幼稚園・保育園のこどもエコクラブにグリーンカーテンをきっかけとしたエコ活動を呼びかけており、土や苗、プランターなどを配布するなど手厚くサポートしています。今回「CAFÉ TSUCHIKO」を活用することで、企業にとっても自治体にとっても、そしてクラブにとっても良い連携を生むことができました。



また、大阪府堺市で下草刈りの活動を企画するも、7 月は豪雨、9 月は台風 21 号のため残念ながら中止となりました。

大阪府では、6 月に大阪府北部地震も発生しており、台風だけでなく様々な災害が起こったことから、地域のクラブへの応援の気持ちを込めて、地元大阪府の木材「おおさか河内材」を使った積み木の製作を企画、府内の幼児のいるクラブと下草刈りに参加予定だったクラブに贈呈しました。

積み木製作に際しては、スギとヒノキの 2 種を使い、子どもたちが遊びながらそれぞれの木の触り心地やにおいなどを感じることで木への愛着・関心を持つよう工夫を行うとともに、贈呈の際に間伐材の役割についても説明しました。

本積み木は大変好評を得て、今後プロントコーポレーションの系列店舗で販売することが決まり、売り上げに応じてこどもエコクラブ事業にご寄附いただくことになりました。



◎コーディネーター説明会

各地のクラブを身近なところで支えてくださるのが、こどもエコクラブ地域事務局のコーディネーターです。こどもエコクラブ事業に関する理解を深めるとともに、事業を活用して自治体での環境教育をより効果的に進めていくためのヒントを提供することを目的として、11月28日(水)にコーディネーター説明会を開催しました。

当日は、青森県八戸市や鳥取県など遠方の方も含め19名がご参加くださいました。自治体の環境教育・環境活動推進にこどもエコクラブの仕組みを活用している事例として三重県と千葉県市川市、自治体と連携することで大きな成果を挙げているクラブの活動事例として埼玉県宮代町のクラブ「MIYASHIRO エコ☆スターズ」から、それぞれ熱のこもったお話をいただきました。またその後のディスカッションでは、クラブを活性化するために子どもが活動の講師を務める、クラブの活動に他のクラブが参加するなどしてクラブ同士の交流を深める、こどもエコクラブの認知度を高めるために自治体同士が競い合うような企画を行う、地域のお祭りに出てクラブが活動をアピールする、などユニークなアイデアがたくさん出されました。

参加者の方からは、「事業の概要が理解できた」、「他の自治体は何をやっているのかわかり非常に参考になった」、「クラブに対しどのようなサポートをすればよいかわかった」などの声をいただきました。

全国事務局では、今後も引き続きコーディネーター説明会を開催していくとともに、都道府県の要望に応じて、地方でも同様の説明会を行っていく予定です。



事業報告

環境学習・環境活動に取り組むきっかけづくり

(1) こどもエコクラブの認知度向上

◎ウェブサイト、SNSを通じた広報

こどもエコクラブの事業紹介のほか、クラブからの活動レポートや全国フェスティバルをはじめとするイベント報告を掲載し、こどもエコクラブ事業全体のみならず個々のクラブの活動についても積極的に発信しています。

2018年度の合計ページビュー: 494,280PV

2018年度の合計訪問者数: 134,903 ユーザー

また Facebook や Twitter を活用したリアルタイムの情報発信も行っています。



Facebook「いいね!」: 1,225 件

フォロワー: 1,234 人 (2019年3月)



各地域担当別 Twitter
地域に合わせた情報を発信
合計フォロワー数: 2,488 人

◎外部メディアの活用

環境省・文部科学省など官公庁の記者クラブや、地方紙等へのプレスリリースを行いました。壁新聞の受賞の話題を中心に、以下のとおり各紙・メディアに記事が掲載されました。

【新聞】

新聞名	日付	記事タイトル
茨城新聞	2018年4月25日	“ホタルの泉”拡大へ 敷地4倍 地元団体と企業連携
読売新聞	2018年5月17日	高岡の園児らに最高賞
北陸中日新聞	2018年5月17日	壁新聞 高岡の15園受賞
富山新聞	2018年5月17日	高岡の園児を表彰
北日本新聞	2018年5月17日	「エコまる」と環境クイズ
読売新聞	2018年5月23日	グリーンカーテン 育てて
北陸中日新聞	2018年5月23日	緑のカーテン ゴーヤー育て
富山新聞	2018年5月23日	グリーンカーテンへ苗植え
北日本新聞	2018年5月23日	育て 緑のカーテン
茨城新聞	2018年5月24日	水戸で環境フォーラム 子どもら成果報告
読売新聞	2018年6月14日	ホタル光る森 再生活動
毎日新聞	2018年6月20日	岡山東法人会 こどもエコクの功績者に感謝状
北陸中日新聞	2018年6月20日	中田中科学部が大臣表彰を受賞
北日本新聞	2018年7月5日	年賀はがきのリサイクル学ぶ 高岡の保育園で環境教室
琉球新報	2018年8月16日	手づくり水族館いかが？ 子どもら飼育の魚展示 恩納OMRC、開催施設を募集
茨城新聞	2018年8月20日	逆川緑地 清掃しよう 水戸で9月8日、参加者募る 生き物学習も
茨城新聞	2018年10月16日	つくばで世界湖沼会議開幕 50カ国・地域の4,000人、自然の恵み未来へ
高知新聞	2018年12月23日	香美市こどもエコクラブ「金」環境日記コンテスト 県内16児童入賞
高知新聞	2019年1月8日	エコ活動を新聞で紹介 香美市の児童ら成果発表会
上毛新聞	2019年1月16日	未来へ自然残そう 前橋でエコクラブ交流
茨城新聞	2019年1月29日	環境保全活動を報告
富山こども新聞	2019年2月3日	郷土のホタル 長年育てる
新日本海新聞	2019年2月15日	「物を長く大切に」子どもたちが服出品
茨城新聞	2019年2月21日	荒地地開墾、農園造り
下野新聞	2019年3月8日	エコ活コンクール 本県から2部門で入賞



茨城新聞
(2018.4.25)



北日本新聞
(2018.5.23)

【自治体広報紙・ウェブサイト】

自治体名	発行/ 掲載時期	記事タイトル
大阪府	2018 年度	大阪府こどもエコクラブ
千葉県市川市	2018 年度	平成 30 年度いちかわこども環境クラブ
岐阜県岐阜市	2018 年 6 月	平成 30 年度 岐阜市こどもエコクラブ発足式
徳島県阿南市	2018 年 7 月	平成 30 年度阿南市こどもエコクラブ事業の環境学習(工場見学等)の実施について
福岡県	2018 年 8 月	7 月 28 日土曜日に「夏休み子ども自然観察会 in 成道寺公園」を実施しました。
福岡県	2018 年 8 月	京築生きもの探検隊を開催しました！！
福岡県春日市	2018 年 10 月	こどもエコクラブ交流会開催報告
新潟県	2019 年 3 月	三ツ星エコクラブ(魚沼市)が「こどもエコクラブ全国フェスティバル 2019」へ参加します
兵庫県神戸市	2019 年 3 月	平成 30 年度こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」の受賞について

7月28日土曜日に「夏休み子ども自然観察会 in 成道寺公園」を実施しました。

児童福祉施設協議会と福岡県(こどもエコクラブ協議会事務局)との連携で、身近な自然との触れ合いを通して自然環境の大切さや生き物多様性を学ぶ「夏休み子ども自然観察会」を園内等で実施しました。

※掲載写真は、子どもたちが自然観察活動の様子です。イオン九州株式会社からの提供画像を添付し、こどもエコクラブ事業を行っています。

・日時：平成30年7月28日(土曜日) 9時15分から14時30分まで
 ・場所：園内(成道寺公園) 及び 成道寺公園(園内成道寺)
 ・参加費：11歳以下児(大人)3名、子ども1名
 ・講師：福岡県自然観察会(講師：ちぎばらさん)
 もし不参加で原本帰国時、もしおぼせやアレルギーなど、お申し込みがせし、参加希望の氏名、おぼせの症状、アレルギーの症状を原簿にお知らせください。
 ※本会の「夏土」ではありませんが、ちぎばらさんからは講師のこどもを申し込みをのぞいて「おぼせ」と呼んでいます。]

自然観察会

「ちぎばらさん」のはがきで自然観察会もしてもらっている。成道寺公園を散策して自然観察を行いました。



成道寺公園には雑草や池、遊歩道など、バリエーション豊かな自然環境があり、そこを巡り様々な生き物の観察をすることができました。

福岡県ウェブサイト

記者発表資料(平成31年3月18日)
 福岡県
 環境部 環境保全部 環境課

平成30年度こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」の受賞について

神戸市では、子どもたちが地域で持続可能な環境学習や環境保全活動を実施する全国的な取り組み「こどもエコクラブ」について、「KOBこどもエコクラブ」事業として活動を実施し、クラブの相互交流を図る活動を実施しています。

公益財団法人日本環境協会(こどもエコクラブ全国事務局)は、地域の中で主体的な活動を行っている全国のこどもエコクラブを対象に、「全国エコ活コンクール」として日本全国の活動したクラブの活動紹介動画を募集し、このたび、KOBこどもエコクラブの所属クラブが、活動部門及び総務部門において受賞しましたのでお知らせします。

なお、表彰式は、平成31年3月24日(日曜)開催の「こどもエコクラブ全国フェスティバル2019」において実施される予定です。

◆こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」受賞クラブ及び受賞者◆

【総務部門】
 ◎エコマーク賞：「食をたべてよう リサイクル」しめっちゃん、パレーマ
 ◎幼幼部門：ミールアップ、エコまる、エコしんぶん、津築こども園、りんごキッズ
 【総務部門】
 ◎優秀賞：ミールアップ、読書 読書(こんどう かつむ)さん

◆こどもエコクラブ事業について◆
 こどもエコクラブは、1999年に環境省事業として始まり、2011年度からは、事業指定地域より公益財団法人日本環境協会が継承し、環境省の指導、地方自治体や企業等の協力を得ながら、子どもたちが主体的に地域で行う環境活動・学習を実施しています。

◆平成30年度こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」について◆

- 応募期間：活動部門 15/校、総務部門 24校
- 表彰式：平成31年3月24日(日曜) こどもエコクラブ全国フェスティバル2019内で実施

◆関連リンク

- こどもエコクラブの活動紹介はこちらをご覧ください。(外部リンク)
- KOBこどもエコクラブの活動紹介はこちらをご覧ください。(外部リンク)
- こどもエコクラブ全国フェスティバル2019の開催はこちらをご覧ください。(外部リンク)

神戸市ウェブサイト

神戸市ウェブサイト

平成30年度いちかわこども環境クラブ

更新日：2019年4月5日

■春の水辺自然観察会

3月2日の土曜日に行徳鳥獣保護区で水辺の自然観察を16名で行いました。行徳鳥獣保護区内や周辺を講師の行徳野鳥観察会及の会職員にガイドしてもらい、河津桜やダイオウ、トビハゼ等の多くの植物や生き物を観察することができました。

また、保護区の歴史や保全活動についての説明を聞き、自然環境の大切さを教えてもらいました。



市川市ウェブサイト

こどもエコクラブ交流会開催報告

【最終更新日 平成30年10月12日】

平成30年9月8日(土曜日)に、こどもエコクラブイベントを開催しました。

前回の平成25年度と同じく、講師には「未来の会(みくのかい)」から藤原 真美恵(しのはら きみえ)先生をお招きし、うどん作りを行いました。

今回参加したのは、3歳から11歳の子どものうちとその保護者14組30人、子どもたちを中心に、「他地域(ちぎらちゃん)の材料を使う」、「お母さんやお父さんの名前や住所も残さず使う」といったエコクラブについて学びながら、楽しくうどん作りができました。

また、うどんを食べながら、講師の先生と子どもたちでエコ活動ができていますか「エコ活動チェック」を行い、「マイ箸を持っているか」や「ペットボトルではなく水筒を持っているか」など日頃の生活を振り返りました。

その後、これから取り組みたい環境活動について、それぞれ紙に書いて発表しました。描いた絵は、参加者渡す名刺の作成に使用しました。

【講師紹介】
 講師 真美恵(しのはら きみえ)
 平成11年に地域の小学4年生から中学2年生までの15人の子どものとともに「エコカードキッズ」クラブを立ち上げた。平成14年には、全国で初めての「春日市こどもエコクラブサポーターの会」を発足し、会長に就任。
 「環境カウンセラー」、「環境マイスター」など多岐の資格や、表彰を受賞した経験を活かし、春日市内外を回る学習講師として活躍している。

また、「食を通して環境問題を考えること」をテーマに活動している団体「未来の会」に所属し、「食所から環境保全を考えること」を普及している。



描いた絵の発表
 完成したうどん
 名刺(右：表、左：裏)

春日市ウェブサイト

◎イベント等への出展・参加

関東地方を中心に、自治体や団体が主催する環境イベントに参加・出展しました。参加者に楽しいプログラムを提供しながら、こどもエコクラブの紹介と勧誘を行いました。

実施日	イベント名	主催者	内容
2018年 6月3日	いちかわ環境フェア 2018	市川市	活動レポート写真展示、クイズ
2018年6月 23、24日	環境広場さっぽろ 2018	札幌市	エコマーク普及啓発プログラム「エコマーク★クエスト」
2018年 7月8日	第2回 educe 食育大会	一般財団法人日本 educ 食育総合研究所	こどもエコクラブ事業紹介
2018年 7月25日	もりもりフェスティバル 2018	中央区環境情報センター	ペットボトルビーズでアクセサリ作り
2018年 8月1、2日	子ども霞が関見学デー	環境省	壁新聞展示、Yes/No クイズ
2018年 9月22日	子どもとためす環境まつり 2018(東京都中央区)	「子どもとためす環境 まつり」実行委員会	新聞紙が大変身★オシャレなバッグを作ろう!
2018年10月15 ～19日	第17回世界湖沼会議 2018 いばらき霞ヶ浦	茨城県、公益財団法人 国際湖沼環境委員会 (ILEC)	活動レポート写真展示
2018年 12月8日	SAITAMA 環境フェア & こどもエコフェスティバル	埼玉県	アクリル毛糸でクリスマスリースづくり
2018年 12月6～8日	エコプロ 2018	一般社団法人産業環境 管理協会、 日本経済新聞社	壁新聞展示・投票
2019年 1月19日	しながわ! コミュニティ・ス クールフェスタ	品川区	壁新聞展示、バイオミクリ講座
2019年 1月26日	新宿の環境学習応援団 まちの先生見本市	NPO 法人新宿環境活動 ネット	エコマーク普及啓発プログラム「エコマーク★クエスト」
2019年 1月26日	第18回草津市こども環境 会議	草津市こども環境会議 実行委員会	壁新聞展示



環境広場さっぽろ 2018



子ども霞が関見学デー



第17回世界湖沼会議 2018
いばらき霞ヶ浦



SAITAMA 環境フェア &
こどもエコフェスティバル

◎広報ツールの貸出

地方自治体等に、広報ツール(前年度に子どもたちが年間の活動をまとめた壁新聞、エコまる旗、エコまる着ぐるみ等)を貸し出しました(旗:6ヶ所、エコまる着ぐるみ:3ヶ所、壁新聞8ヶ所)。



壁新聞



エコまる旗・着ぐるみ



事業紹介パネル

(2) こどもエコクラブへの登録促進

環境活動を行う幼児(3歳)から高校生の子どもと、子どもたちの活動を支援する大人(サポーター)で構成したクラブの登録を受け付け、一元的な情報管理※1を行いました。

平成30年度の登録数※2は、クラブ数:1,802クラブ、メンバー数:101,086名、サポーター数:16,756名で、これまでの延べ登録メンバー数は約250万人となりました。

また、登録数の増加を目指し、以下のような取り組みを行いました。

◎ポスター・チラシの配布

本事業に賛同して地域事務局として登録した地方自治体および関係方面に、クラブの募集ポスター、チラシを希望数配布しました。また、希望する自治体には版下用データを送付し、地域事務局名を入れた独自のポスターを制作できるようサポートしました。なお、チラシについてはこどもエコクラブウェブサイト内でも掲載し、適宜ダウンロードすることができるようにしました。



ポスター



チラシ

◎メンバーズバッジの配布

こどもエコクラブメンバーの証であるメンバーズバッジを制作し、登録したクラブメンバーへの特典として配布しました。バッジの色を毎年変更することで、子どもたちの活動継続へのモチベーション向上に役立っています。

※1 クラブの個人情報は弊協会プライバシーポリシーにのっとり、適切に管理しています。

※2 都道府県別登録数、学年内訳等は、P.33「登録データ」を参照。



◎ 環境活動・学習の活性化促進

(1) ウェブサイト・メール等を通じた情報提供

サポーター向けコンテンツとして、助成金情報や地域別のイベント情報の掲載を行っています。また、「リアルヴォイス」として、他のクラブが取り組みたくなる優良プログラムを紹介しています。これらを含めた更新情報を取りまとめてお知らせするメールマガジン「サポーターインフォメーション」を月2回配信しています。

(2) 教材・プログラムの提供

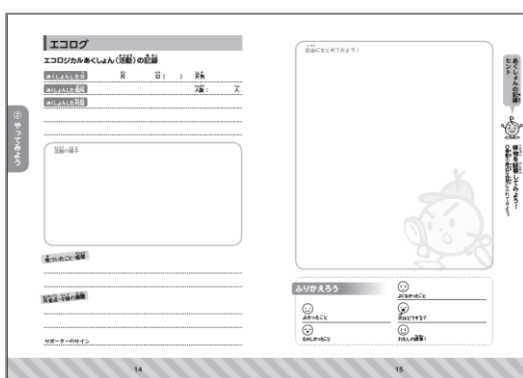
◎手帳、エコカード等の作成・配布

子どもたちの活動への意欲・継続意識の促進を目的として、日頃の活動を記録するメンバー手帳を希望するメンバーに実費頒布しました。また、小学校入学前のメンバーを対象としたツール「ぼくの/わたしのエコカード！」を希望する未就学児がいるクラブに送りました。

サポーター(大人)向けには、事業趣旨や活動時の支援内容等を記載した「応援マニュアル」を新規登録クラブに配付しました。



メンバー手帳



エコカード



応援マニュアル

◎プログラム・講座の実施

自治体やクラブの要望を受け、環境学習プログラムや講座を行いました。



夏休み★エコビル探検隊！
(東京都中央区)



しながわ！コミュニティ・スクールフェスタ
体験ゾーン(東京都品川区)

(3) 活動レポート、壁新聞へのフィードバック

◎エールメッセージ

クラブから寄せられる活動レポートに対して、応援団(環境カウンセラーや協会の子ども環境相談室・相談員等の環境に知見のある有識者)からのエールメッセージ(活動の発展につながるコメントやアドバイス)を、投稿後2週間以内に送付しています。平成30年度は1,064件の投稿があり、その全てにエールメッセージをお返ししました。

<掲載例>

○八鶴湖自然観察会に参加したよ

図鑑を手に植物、鳥の観察をしました。

参加者のようす

大好きな虫は少なかったですが、図鑑を片手に、植物で遊ぼう、鳥を見ようと楽しんでいました。

感想・気づいたこと・考えたこと

しゅう:タンポポの風車を作りました。タンポポの茎に切り込みを入れて、水についたら切り込みが反り返って、風車になりました。先生に質問です。タンポポはどうして、切ると白い汁がでるのですか？ オレンジの蝶のような蛾のような虫がいました。最初は、紅シジミかなと思ったけれど、羽を広げて止まっていたので、これは蛾なのかなと思いました。自然観察をして、3月でも生き物や植物がいっぱいいるんだなと思いました。

その他(サポーターの感想)

感想を聞いて、こんなことに気付いて、考えていたのかあ、と思いました。やはり振り返ることが大切だと改めて感じました。大人も楽しい自然観察です。運動にもなります。八鶴湖は桜の名所でもあり、来月の観察会では桜が咲いていると思うので楽しみです。



○コメント

かまきりチームのみなさん、報告ありがとうございます。

まず質問の回答からしましょう。タンポポのくきから出た汁をさわってみましたか？指でさわってしばらくすると、ベタベタした感じになると思います。白い汁には、天然ゴムの成分がふくまれています。タンポポのくきを食べようとした虫がくきをかじると、白い汁が出てそれを食べた虫の口がゴムの成分で固まり、それ以上食べられなくなってしまうようです。つまり、植物が身を守るために役立っていると考えられています。さわったことがなければ、自分でもさわってみてくださいね。

植物の花で色をそめてみたり、水上の鳥の羽で水の流れや動きを感じてみたり、自然の中で遊びながらぎもんをもつことは素晴らしいです。観察する目がやしなわれると思いますよ。自分たちがもったぎもんを、どうしたら解決できるかもぜひ考えてみてくださいね！次の報告も楽しみにしています。



◎壁新聞道場

平成 29 年度に提出された、1 年間の活動をまとめた壁新聞全 194 作品に対して、環境に知見のある有識者（環境カウンセラーや子ども環境相談室・相談員等）による、壁新聞のまとめ方や効果的な伝え方、活動の発展につながるコメントやアドバイスを付し、「壁新聞道場！」としてウェブサイトで紹介しました。



師範から一言！

大倉川での生き物調査に関して、半年間のこの活動記録を「きっかけ」、「準備・予想」、「活動までの流れ」、「まとめ」のそれぞれのセクションに分けて、プロの人が作ったような、読者の立場から読みやすく理解しやすい、とてもすばらしい壁新聞です。

絶滅危惧種の「オヤニラミ」のことをみなさんの壁新聞で初めて知りました。この「オヤニラミ」を大倉川で発見できてよかったですね。「オヤニラミ」の名前は、オスが卵を守る様子・「親がにらみをきかす」というところからつけられたと言われており、とてもめずらしい名前ですね。

「まとめ」に書かれているように、「大倉川にはたくさんの生き物が住んでおり、この生き物を守っていくには日々の生活の中でさいななことでも気づかっていく。」ということは、むずかしいことも時々あるとは思いますが、とても大切で基本的な自然保護活動ですね。大賛成！！

とっておきのゴジドウ★

このようなすばらしい大倉川のことをもっと読者のみなさんに知ってもらうために、さらにこれらの生き物の保全活動のために、定期的な生き物調査をすることも大切であると思います。この調査によりどのような生き物がどの地点で増えたり、減ったり、その原因を調査して、どのような保全活動が必要かを勉強すれば、もっときょうな大倉川になると思います。

◎活動レポートフォトコンテスト

活動レポートと一緒にクラブから寄せられる写真を活用したフォトコンテスト(協賛:ケニス)を3期に分けて実施・表彰して、活動報告の投稿を促すとともに、受賞作品を広報資料に掲載するなど写真を活用して元気に活動する子どもたちの様子をアピールしました。

また、3月に実施した全国フェスティバルにおいて、1期～3期の全ての入賞作品を展示して、全国フェスティバルの全参加者による投票を行い、年間賞を決定、表彰を行いました。

○平成 30 年度 入賞作品(年間賞)



■平成 30 年度子どもエコクラブ賞
西京極児童館自然探検隊2004（京都府京都市）
「エコクラブキャンプ」



■平成 30 年度ケニス賞
だいやエコクラブ(長崎県佐世保市)
「白浜海水浴場見学(清掃活動及びビーチコーミング)」

◎新人賞、皆勤賞

毎月1回、その月に初めて活動レポートを投稿してくれたクラブの中から抽選で1クラブに「活動レポート新人賞」を贈呈しました(協賛:バンダイナムコホールディングス)。

また、新たに活動レポート皆勤賞を設け、季節ごとに1回以上(合計4回以上)活動レポートを送ってくれた23のクラブを称えました。

フォトコンテスト及び新人賞、皆勤賞は、より多くのクラブから活動レポートを投稿してもらうことをねらって実施しているものです。今年度の投稿クラブ数は87でした。

(4)企業との協働推進

◎企業からの支援

プロントコーポレーション(P.7)のほかにも、様々な企業・団体様に子どもエコクラブとの連携・協力活動を実施していただきました。ウェブサイトやメールを通してサポーターやコーディネーター(地方自治体の子どもエコクラブ担当者)に活動の周知を図り、多くの子どもたちに参加していただいたほか、活動を通して企業とクラブとの新たなつながりも生まれました。

【環境活動・イベント】



三菱電機 エコプロ 2018 子どもエコクラブ
スペシャルツアー(東京都江東区)



イオン チアーズクラブ壁新聞講座
(神奈川県横浜市)

【コンクール等の実施】



昭和シェル石油 環境フォト・コンテスト
「わたしのまちの○(まる)と×(ばつ)」



プリヂェストン「子どもエコ絵画
コンクール」



山田養蜂場「ミツバチの絵本
コンクール」

【アシストプログラム】

パートナーになっていただいている企業・団体、地域事務局の自治体が有する環境学習教材やプログラム等を「アシストプログラム」としてウェブサイトで紹介しています。

アシストプログラム一覧(2019年3月現在)

区分	企業・自治体名	プログラム名	対象地域
資料・教材	滋賀県大津市	環境学習サポーター	大津市内
	三井住友銀行	環境情報誌 JUNIOR SAFE	全国
体験・学習プログラム	岡山県	おかやま環境学習プログラム集	岡山県内
	大阪府東大阪市	東大阪市環境教育出前講座	東大阪市内
	エフピコ	使用済みトレイの選別センター・リサイクル工場見学等	センター・工場の近隣地域
	キリン	工場見学ツアー(全6ヶ所)	工場の近隣地域
体験・学習イベント	ジャパンビバレッジホールディングス	ぼくとわたしのリサイクル作文コンクール	全国
	オリンパス	ネイチャースクール in 三浦 潮溜まりでサンゴ観察 in 東伊豆・八幡野 水族館でサンゴ観察 at サンシャイン水族館	全国から参加可能
各種コンクール	SGホールディングス	全国エコ絵画コンクール	全国
	ブリヂストン	こどもエコ絵画コンクール	全国
	山田養蜂場	ミツバチの一枚画コンクール ミツバチの童話と絵本のコンクール	全国
	日本印刷産業連合会 グリーンプリンティング事務局	「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト	全国
	昭和シェル石油	環境フォト・コンテスト[わたしのまちの○と×]	全国

◎意見交換会

多くの方にこどもエコクラブについてご賛同・ご支援いただけるよう、こどもエコクラブ応援企業・団体の意見交換会を実施しました。企業・団体が行っている本事業への支援事例を発表いただき、企業・団体同士の交流を推進するとともに、こどもエコクラブ事業について理解を深めていただきました。また、環境省・文部科学省の環境教育に携わる方々にもご挨拶をいただきました。



日時：平成 30 年 11 月 19 日(月) 15:00～17:30
会場：合同庁舎 5 号館(環境省) 22 階 第 1 会議室
主催：環境省、公益財団法人日本環境協会
出席者：21 企業・団体 22 名、環境省 5 名、文部科学省 2 名、
こどもエコクラブアドバイザーボード・推進委員会等 3 名、事務局 6 名

◎いきものみつけファーム

平成 23 年度から、こどもエコクラブを核として、地方自治体、企業、生産者、大学、NPO 等が協働することにより、子どもたちが身近な生物とのふれあい等の自然体験や農業体験、農作物の販売体験等の社会体験を通じ、環境や食と農、グリーン購入などを学ぶいきものみつけファーム事業を推進しています。各地に産官学民が協働する「いきものみつけファーム推進協議会」を設置し、環境配慮型の農業の普及、環境配慮型商品の流通促進、地域の環境活動リーダーの育成など地域の活性化を図っています。



わら細工体験(京都府京丹後市)

平成 30 年度は、長野県松本市、秋田県大仙市、滋賀県、長野県長野市、山梨県中央市の協議会において作物の植え付け、収穫、生物観察、食育、流通など様々な活動を繰り広げました。その他、京都府京丹後市で新たな推進協議会の設立の準備を進めています。

◎Project-D

平成 23 年の東日本大震災で大きな被害を受けた森林や樹木の再生をテーマに、こどもエコクラブを始めとする全国の子どもたちが、①被災地復興のため心をついに協力する ②遺伝子の攪乱を防ぎ、生物多様性に配慮した森林再生を行う ③子どもたちの環境、地域づくりへの理解を深めるとともに、事業に参加するこどもエコクラブのサポーターや企業担当者等の環境人材の育成を図ることを目的した事業を、平成 23 年度から実施しています。



岩手県北上市での下草刈り

平成 30 年度は、これまでに植樹をした福島県郡山市、宮城県東松島市、岩手県北上市において、苗木の健全な成長を助けるため、下草刈りなどの育林活動を行いました。

(5) All Japan Youth Eco-club

環境活動・環境学習の充実・発展を目的に、こどもエコクラブでの活動経験のある若者のネットワークとして発足しました。全国フェスティバルでは司会やエコ活セッションの進行を担うなどこどもエコクラブのサポートのほか、ユースメンバー同士の交流、イベント等の企画等の活動を行っています。

◎「ユースが行く！」連載

ユースが自分のクラブの枠を越えて、他のクラブを取材して活動を紹介したり、自身が実行・参加したエコ活動の報告をしたりする記事「ユースが行く！！」を 4 回、ウェブサイトに掲載しました。



◎Youth Econet

多くのユース世代がもっと気軽に参加することでネットワークを拡大していくことを目指し、SNS を通して交流や情報発信を行う「Youth Econet」を創設しました。今後、Facebook や Twitter を活用し仲間を増やしていく予定です。



◎環境活動・学習の意欲の向上、ステップアップ

(1) 地域活動活性化

◎サポーター交流会

クラブのメンバーが意欲を持って活動し、ステップアップしていくためには、日頃から子どもたちをサポートして下さっているサポーターへの働きかけが重要です。全国事務局では3月に開催された全国フェスティバルの中でもサポーター交流会を実施しました。11クラブ12人のサポーター



のほか、コーディネーターも多数参加して熱心な意見交換が行われました。このほか、岩手県、埼玉県、滋賀県、佐賀県でも、事務局がサポーター交流会を開催していただきました。

各地のこどもエコクラブで活動する子どもたちの成長を支える柱となるのがクラブのサポーターです。全国事務局ではこれからも、サポーターのみなさんのスキルアップや交流の機会を提供していきます。

◎こどもエコクラブ交流会

群馬県事務局では夏に学習会、冬に交流会と、年2回こどもエコクラブを対象としたイベントを開催して下さっています。8月の学習会では五感を使って森のパワーを学び、1月の交流会ではクラブの活動発表や壁新聞の展示、科学工作教室などを行いました。

この他にも、千葉県や埼玉県など多くの自治体がこどもエコクラブの交流会を開催して下さっています(P.30 参照)。



こども環境会議ちば



SAITAMA 環境フェア & こどもエコフェスティバル

◎リアル・ヴォイス☆Premium(プレミアム)

こどもエコクラブの中には、地域に根ざした環境活動を続ける中で多様な主体とつながり、地域の環境保全において中心的な役割を担うまでに成長しているところもあります。これらのクラブの成功の要因・秘訣を、サポーターへのインタビューを通して明らかにするコンテンツ「リアル・ヴォイス☆Premium」、2018年度は、福岡県飯塚市の「まなび・ねっと」を紹介しました。

◎こどもエコクラブに入って体験活動の楽しさを実感!

子どものころから昆虫採集や化石採取が大好きで、高校では環境保全の基礎を学びました。大学卒業後社会人になった後も、環境省が全国に呼び掛けた生き物調査に参加して、地元のセミの生態調査にも参加するなど地域の環境活動に関わっていました。平成14年、飯塚市が立ち上げた「いづか環境市民会議」の委員募集に、市民の環境保全活動の普及(環境教育)に関わりたくと考え応募。これまでの経験が認められて環境教育部会の副会長に就任しました。環境基本計画に「こどもエコクラブ設置」が謳われたため、私は推進役のリーダーのひとりとして、市民への勧誘を促進する以上、まず自分が実際に体験することが大事と思い、こどもエコクラブに登録。地元の学校やPTAにご説明にも出かけました。実際に落ち葉でたい肥をつくったり、子どもたちに自然観察の方法を指導するなど始めてみると、子ども以上に「体験活動の楽しさ」に自分自身がどんどんのり込んでいったというのが本当のところでした。

◎活動を投稿するとお褒めのコメントがもらえる!

こどもエコクラブのいいところは、何といっても、「設立が簡単」なこと(全国事務局に届け出だけ)です。そして、難しく考えずに興味のあることから始められる、活動レポートを投稿したら「お褒めのコメント」がある。定期的にイベントの紹介やグッズの提供があることなど、多くのメリットがあることが功を奏して活動を13年にもわたって継続することができました。その間、メンバーである子どもたちも大きく成長しました。こどもエコクラブで地域に働きかけた活動を紹介します。

(2) 全国規模での交流と顕彰

◎全国エコ活コンクール

子どもたちが日頃のエコ活動をまとめることによって、活動を通して感じたことなどをふりかえるとともに新たな気づきを得るきっかけとすることを目的とした「全国エコ活コンクール」を企画し、全国のクラブに対しては活動をまとめた壁新聞を、個々のメンバーに対しては絵日記を募集しました。また、メンバーの表情をよりいきいきと映し出すことのできる映像部門を新たに設けました。

子どもたちが作成した壁新聞・絵日記を「独創性」、「発展性」、「アピール力」、「地域への密着度」を選考基準として、有識者、各省庁担当官、企業担当者等からなる「選考委員会」にて審査を行い、壁新聞の環境大臣賞、文部科学大臣賞、消費者庁長官賞、日本環境協会賞、協賛企業賞、絵日記の優秀賞等を選定しました。

■募集概要

- 募集期間：平成30年10月～平成31年1月9日（水）
- 対象：全国のこどもエコクラブ
- 仕様：壁新聞－模造紙大またはA2サイズ、縦横自由
絵日記－A3サイズ、縦
映像－2分以内
- その他：複数枚数の応募可能

■募集結果

- 壁新聞 応募数：157枚
- 絵日記 応募数：240枚
- 映像 応募数：4本

■審査結果

- 受賞壁新聞・絵日記 P.37 参照
- ※映像部門は該当作品なし

◎アースレンジャー認定証の授与

子どもたちの活動を称える「アースレンジャー認定証※」を作成し、1年間に5回以上の活動を報告したメンバー（1,470名）に授与しました。

また、3年間継続活動をしているメンバー（280名）には銀バッジを、6年間継続活動をしているメンバー（38名）には、金バッジを授与しました。

※年間5回以上の活動報告を行い、申請があったメンバーに授与。



◆環境大臣賞（壁新聞）



認定証/金・銀バッジ

◎こどもエコクラブ全国フェスティバルの企画・実施

各地域で子どもたちが展開している活動を紹介して、環境保全活動の定着・拡大を促し、環境人材の育成を図ることを目的として、全国フェスティバルを企画・実施しました。活動をまとめた壁新聞で選ばれた都道府県代表クラブ、絵日記で選ばれた受賞者が参加し、子どもたちの活動発表・交流や環境に関する企業・団体展示ブースの見学、環境大臣賞の表彰等を行いました。

■こどもエコクラブ全国フェスティバル 2019～輝け☆全国のアースレンジャー！～

○開催日：2019年3月24日（日）

○会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

○主催：公益財団法人日本環境協会（こどもエコクラブ全国事務局）

○後援：環境省、文部科学省、厚生労働省、消費者庁、

独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益社団法人こども環境学会、

全国小中学校環境教育研究会、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会、NHK

○出展企業・団体：アース製薬株式会社、アマノ株式会社、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ、

株式会社イトーキ、SGホールディングスグループ（佐川急便）、株式会社エフピコ、

王子ホールディングス株式会社、株式会社ジャパンビバレッジエコロジー、

DOWAエコシステム株式会社、トヨタ自動車株式会社、

一般社団法人日本印刷産業連合会グリーンプリンティング認定事務局、

日本CCS調査株式会社、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会、

文化シャッター株式会社、株式会社山田養蜂場、エコマーク事務局

○協力：井筒まい泉株式会社、MSC（海洋管理協議会）、All Japan Youth Eco-club、

ケニス株式会社、日本生活協同組合連合会、株式会社丸井スズキ、株式会社ミールケア、

株式会社三井住友銀行、目白大学、リソー教育グループ、株式会社龍角散、

早稲田大学学生環境NPO環境ロドリゲス

○参加者：450名

・都道府県代表クラブ：291名（子ども169名、大人122名）

・絵日記受賞メンバー：12名（子ども6名、大人6名）

・一般来場者：4名（子ども2名、大人2名）

・省庁、こどもエコクラブ自治体担当者、支援企業団体等 関係者：36名

・出展企業・団体担当者：55名

・ユースボランティア、スタッフ：52名



(3) 他団体からの表彰

2018年度も、多くのクラブがコンクールで受賞したり、長年の活動を評価されて表彰を受けたりしました。その一部をご紹介します。

都道府県名	市区町村名	クラブ名	賞名	主催者/コンクール名
茨城県	水戸市	逆川子どもエコクラブ	オーディエンス賞	低炭素杯 2019
千葉県	大網白里市	かまきりチーム	佳作	環境省「Non 温暖化！子ども壁新聞コンクール」
東京都	品川区	品川区立山中小学校おやこエコクラブ	最優秀次世代賞	低炭素杯 2019
新潟県	佐渡市	新潟県立佐渡総合高等学校	最優秀未来へのはばたき賞	低炭素杯 2019
富山県	高岡市	高岡市立中田中学校 科学部	地域環境保全功労者 環境大臣表彰	環境省
富山県	高岡市	高岡市立中田中学校 科学部	審査員特別賞	環境省 子どもホタレンジャー活動
静岡県	御殿場市	チーム YKM	入選	教育出版 地球となかよしメッセージ
静岡県	湖西市	今川子ども自然クラブ	環境大臣賞	環境省 子どもホタレンジャー活動
滋賀県	大津市	ぼてじゃこワンプク塾	環境省自然環境局長賞	環境省 全国野生生物保護実績発表大会
大阪府	大阪市	大阪市立新北島中学校 科学技術部	大阪市環境表彰 学校園の部	大阪市
兵庫県	神戸市	玉ーアクアリウム	地域環境保全功労者 環境大臣表彰	環境省

都道府県名	市区町村名	クラブ名	賞名	主催者/コンクール名
兵庫県	神戸市	ひまわりらぼ	優秀賞	日本環境協会 エコマーク 30 周年記念「写真コンテスト」
兵庫県	神戸市	ひまわりらぼ	優秀賞	環境省「Non 温暖化！こども壁新聞コンクール」
和歌山県	田辺市	和歌山県立田辺高等学校・中学校 生物部	地域環境保全功労者 環境大臣表彰	環境省
島根県	松江市	忌部わくわくサファリ	奨励賞	環境省 こどもホタルンジャー活動
高知県	香美市	香美市こどもエコクラブ	団体の部 グリーンクロスジャパン理事長賞	「みどりの小道」環境日記コンテスト
福岡県	飯塚市	まなび・ねっと	地域環境保全功労者 環境大臣表彰	環境省
長崎県	佐世保市	だいやエコクラブ	文部科学大臣賞	「みどりの小道」環境日記コンテスト
長崎県	佐世保市	だいやエコクラブ	最優秀賞	環境省「Non 温暖化！こども壁新聞コンクール」
熊本県	益城町	広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)	奨励賞	環境省 こどもホタルンジャー活動
鹿児島県	鹿児島市	西伊敷小学校こどもエコクラブ	団体の部 文部科学大臣賞	「みどりの小道」環境日記コンテスト

地域事務局の取組事例

地域事務局においても、さまざまな形で子どもエコクラブを推進しています。

(1) 子どもエコクラブ関連記事(紹介・募集)の掲載

◆広報紙・ウェブサイト等



滋賀県草津市「広報くさつ」



兵庫県伊丹市「広報伊丹」



沖縄県南風原町「地球にいいこと
はじめよう！子どもエコクラブ」



青森県八戸市 ウェブサイト



秋田県 ウェブサイト



岐阜県岐阜市 ウェブサイト



鳥取県 ウェブサイト

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	—	埼玉県	戸田市	長野県	佐久市	鳥取県	—
北海道	札幌市	埼玉県	朝霞市	長野県	千曲市	鳥取県	米子市
北海道	函館市	埼玉県	久喜市	岐阜県	岐阜市	島根県	—
北海道	小樽市	埼玉県	吉川市	岐阜県	可児市	島根県	松江市
北海道	室蘭市	埼玉県	寄居町	静岡県	—	島根県	浜田市
北海道	釧路市	千葉県	—	静岡県	浜松市	島根県	出雲市
北海道	北見市	千葉県	市川市	静岡県	沼津市	岡山県	—
北海道	網走市	千葉県	船橋市	静岡県	富士市	岡山県	倉敷市
北海道	羽幌町	千葉県	佐倉市	静岡県	藤枝市	岡山県	井原市
青森県	—	千葉県	習志野市	静岡県	湖西市	岡山県	浅口市
青森県	青森市	千葉県	市原市	愛知県	—	広島県	—
青森県	八戸市	千葉県	八千代市	愛知県	岡崎市	広島県	広島市
岩手県	—	東京都	新宿区	愛知県	一宮市	広島県	福山市
岩手県	盛岡市	東京都	江東区	愛知県	半田市	山口県	—
岩手県	遠野市	東京都	世田谷区	愛知県	春日井市	山口県	宇部市
岩手県	雫石町	東京都	中野区	愛知県	豊田市	山口県	山口市
宮城県	—	東京都	豊島区	愛知県	江南市	山口県	岩国市
宮城県	石巻市	東京都	北区	愛知県	小牧市	愛媛県	今治市
宮城県	気仙沼市	東京都	荒川区	愛知県	稲沢市	愛媛県	西条市
宮城県	多賀城市	東京都	練馬区	愛知県	日進市	高知県	—
宮城県	利府町	東京都	足立区	愛知県	東浦町	福岡県	—
秋田県	—	東京都	八王子市	三重県	—	福岡県	北九州市
秋田県	秋田市	東京都	武蔵野市	三重県	津市	福岡県	筑紫野市
秋田県	横手市	東京都	町田市	三重県	四日市市	福岡県	春日市
秋田県	由利本荘市	東京都	稲城市	三重県	松阪市	福岡県	大野城市
山形県	—	神奈川県	—	三重県	鳥羽市	福岡県	太宰府市
福島県	—	神奈川県	横浜市	三重県	志摩市	福岡県	朝倉市
福島県	福島市	神奈川県	相模原市	滋賀県	—	佐賀県	—
福島県	会津若松市	神奈川県	横須賀市	滋賀県	大津市	佐賀県	佐賀市
福島県	郡山市	神奈川県	平塚市	滋賀県	草津市	長崎県	—
福島県	いわき市	神奈川県	藤沢市	京都府	木津川市	長崎県	佐世保市
茨城県	—	神奈川県	茅ヶ崎市	大阪府	—	長崎県	大村市
茨城県	日立市	神奈川県	大和市	大阪府	大阪市	熊本県	—
茨城県	北茨城市	神奈川県	綾瀬市	大阪府	堺市	熊本県	人吉市
茨城県	ひたちなか市	新潟県	—	大阪府	高槻市	大分県	—
栃木県	—	新潟県	長岡市	大阪府	茨木市	大分県	大分市
栃木県	宇都宮市	新潟県	三条市	大阪府	寝屋川市	宮崎県	—
栃木県	栃木市	新潟県	柏崎市	大阪府	大東市	宮崎県	宮崎市
栃木県	真岡市	富山県	—	大阪府	東大阪市	宮崎県	都城市
栃木県	那須烏山市	富山県	高岡市	大阪府	交野市	鹿児島県	—
群馬県	—	石川県	金沢市	大阪府	阪南市	鹿児島県	鹿児島市
群馬県	前橋市	福井県	—	兵庫県	神戸市	鹿児島県	鹿屋市
群馬県	高崎市	福井県	越前市	兵庫県	姫路市	鹿児島県	指宿市
群馬県	伊勢崎市	山梨県	—	兵庫県	尼崎市	鹿児島県	霧島市
埼玉県	—	長野県	—	兵庫県	伊丹市	沖縄県	—
埼玉県	さいたま市	長野県	長野市	兵庫県	加古川市	沖縄県	那覇市
埼玉県	川越市	長野県	松本市	奈良県	奈良市	沖縄県	浦添市
埼玉県	川口市	長野県	岡谷市	和歌山県	—	沖縄県	南風原町
埼玉県	所沢市	長野県	茅野市				

(2) 地域クラブのメンバー募集と運営

ふくしまエコ探検隊

ふくしまエコ探検隊は、市内の小学4～6年生を対象に、身近な環境について楽しく学ぶ環境教室です。
野外散策や施設見学、楽しいゲームなどを通して、地球温暖化や省エネルギー、再生可能エネルギーなどについて学んでいます。

平成30年度の活動内容

○藤上川で水質・水生生物調査



○水林自然林の散策



福島県福島市 クラブページ

みんな集まれ!

中央区立環境情報センター
中央エコキッズ 会員募集中!!

●中央エコキッズとは・・・
区内在住・在学の小学生ならだれでも参加できる環境活動のクラブです!
自然観察や生きもの調査、廃材を使ったおもちゃ作りや間伐材を使ったワークショップなど、さまざまなイベントや活動を通して、子どもたちが楽しみながら環境について考えるきっかけとなるよう、全力でサポートしていきます!
みなさんも地域で身近にできる地球にやさしい環境活動に取り組んでみませんか?



東京都中央区 メンバー募集ページ

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	北見市	東京都	新宿区	長野県	岡谷市	京都府	木津川市
福島県	福島市	東京都	杉並区	長野県	飯田市	大阪府	大阪市
福島県	会津若松市	東京都	荒川区	静岡県	三島市	大阪府	吹田市
茨城県	龍ヶ崎市	東京都	板橋区	静岡県	富士市	兵庫県	神戸市
栃木県	宇都宮市	東京都	立川市	静岡県	藤枝市	兵庫県	相生市
群馬県	前橋市	東京都	調布市	愛知県	豊田市	兵庫県	たつの市
埼玉県	坂戸市	神奈川県	相模原市	愛知県	長久手市	鳥取県	米子市
千葉県	市川市	神奈川県	鎌倉市	滋賀県	大津市	広島県	福山市
千葉県	習志野市	神奈川県	藤沢市	滋賀県	守山市	沖縄県	南風原町
東京都	中央区	長野県	松本市				

(3) ニュースレターの発行



千葉県 子どもエコネットちば



新潟県子どもエコクラブ
サポーターズニュース

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
岩手県	—	群馬県	—	新潟県	—
栃木県	—	千葉県	—	福岡県	春日市

(4)交流会等 環境イベントの開催



埼玉県
環境学習に関する交流会



千葉県市川市
壁新聞・絵日記展



静岡県
子どもエコクラブ学習会・交流会



岐阜県岐阜市
子どもエコクラブ交流会



大阪府大阪市
子どもエコクラブ交流会



岡山県
子どもエコクラブ in おかやま 活動発表会

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	札幌市	埼玉県	越谷市	滋賀県	—	広島県	—
北海道	函館市	千葉県	—	滋賀県	草津市	広島県	広島市
岩手県	—	千葉県	市川市	大阪府	—	徳島県	阿南市
秋田県	—	東京都	立川市	大阪府	大阪市	高知県	—
福島県	郡山市	岐阜県	岐阜市	兵庫県	神戸市	福岡県	—
茨城県	—	静岡県	—	兵庫県	姫路市	福岡県	春日市
茨城県	土浦市	静岡県	富士市	鳥取県	—	佐賀県	—
群馬県	—	愛知県	豊田市	鳥取県	米子市	熊本県	—
埼玉県	—	三重県	—	岡山県	—	沖縄県	—
埼玉県	川越市						

(5) クラブへの助成金・物品支援・講師派遣等

鳥取県子どもエコクラブ活動支援補助金について

鳥取県子どもエコクラブ活動支援補助金について

鳥取県では独自に、県内の市町村と連携して、子どもエコクラブにおけるクラブ活動費の一部を助成します。子どもエコクラブ全国事務局に登録された会員数（メンバー＋サポーター）に700円（上限額）を乗じた額を交付しています。

※補助金の申請は、各市町村が窓口となります。詳細は各市町村担当部署にお問い合わせください。
（各市町村担当部署一覧の掲載については、現在作業中ですので、まずは下記の問い合わせ先に御連絡ください。）

[鳥取県子どもエコクラブ活動支援補助金交付要綱【PDFファイル、137KB】](#)
[様式第1号～第3号、第5号別紙様式【Wordファイル、74KB】](#)
[様式第4号【PDFファイル、39KB】](#)

※上記交付要綱は、平成29年度事業から適用（平成29年3月30日から改正施行）

【補助対象となる経費の具体例】

- 活動中の事故を対象としたスポーツ安全保険の保険料
- 環境教育施設を見学に行く場合の運賃、入館料
- 廃棄物を使った工作などを行う場合の必要な材料、工具などの購入費
- 自然観察会などで使用する図鑑、筆記用具などの購入費 など

鳥取県
子どもエコクラブ活動支援補助金



福岡県
「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」
による県内子どもエコクラブへの支援

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
岩手県	—	千葉県	市川市	兵庫県	神戸市	佐賀県	—
岩手県	遠野市	東京都	練馬区	奈良県	—	長崎県	—
宮城県	—	福井県	—	鳥取県	—	熊本県	—
秋田県	—	福井県	永平寺町	鳥取県	北栄町	大分県	—
福島県	—	長野県	—	山口県	山口市	宮崎県	—
栃木県	—	静岡県	藤岡市	高知県	—	鹿児島県	—
栃木県	真岡市	滋賀県	—	福岡県	—	沖縄県	—
埼玉県	—						

(6) 子どもエコクラブ活動報告書等の発行・配布



秋田県



群馬県



埼玉県川越市



福岡県

◆実施自治体(全国事務局にて把握しているもの)

都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
北海道	函館市	群馬県	—	埼玉県	越谷市	福岡県	—
秋田県	—	埼玉県	川越市	三重県	—		

● 協賛・協力いただいた企業・団体

本事業の実施・運営に関して、様々な企業・団体の皆さまからの支援・連携を募り、「パートナー」「寄附」等により実施・運営を行っております。

■ パートナー（パートナー会員及びイベント協賛企業・団体）（61 社）

アース製薬	アマノ	イオンワンパーセントクラブ	市流
イトーキ	SG ホールディングス グループ/佐川急便	エフピコ	塩ビ工業・環境協会
王子ホールディングス	オリンパス	教育出版	共立駐車場工事
共立理化学研究所	キリン	グリーンクロスジャパン	グリーンサイクル
グリーンバード	ケニス	JTB	シミズオクト
清水建設	ジャパンビバレッジ エコロジー	昭和シェル石油	住商フーズ
3R 活動推進フォーラム	高杉製薬	高光産業	TSI ホールディングス
脱炭素化支援	鉄建建設	東京国際フォーラム	東京建物
東レ	DOWA エコシステム	トヨタ自動車	西日本ビル代行
日本印刷産業連合会・ グリーンプリンティング 認定事務局	日本 CCS 調査	日本容器包装 リサイクル協会	長谷エコレーション
林事務所	バンダイナムコ ホールディングス	ブリヂストン	文化シヤッター
マツモトキヨシ ホールディングス	ミールケア	三井化学	三井住友海上火災保険
三井住友銀行	三菱地所	三菱地所設計	三菱地所ホーム
三菱地所リアル エステートサービス	三菱地所リテール マネジメント	三菱地所レジデンス	三菱電機
山田養蜂場	リード	リソー教育グループ	龍角散
ワイス・ワイス			

■ 寄附

【企業・団体】

イオンファンタジー	積水化学工業	全労済	西久大運輸倉庫
プロントコーポレーション	マイنز農業協同組合	INNER ENERGY TECH. INC.	

【個人・その他】

緒方 瑞穂 様	松浦 恵子 様	他 6 名
T ポイントジャパン	つながる募金 3 名	古本募金 (団体 7、個人 4)

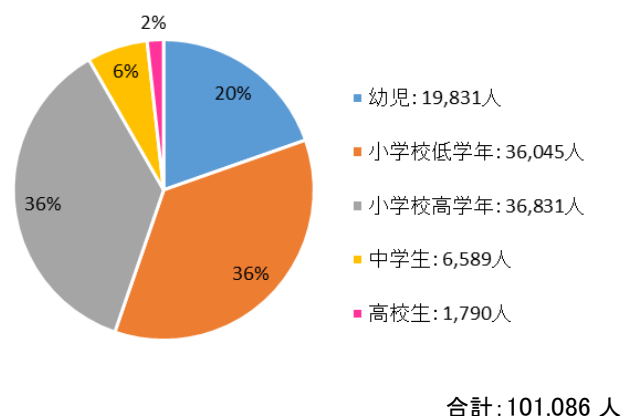
登録データほか

■平成 30 年度都道府県別登録データ

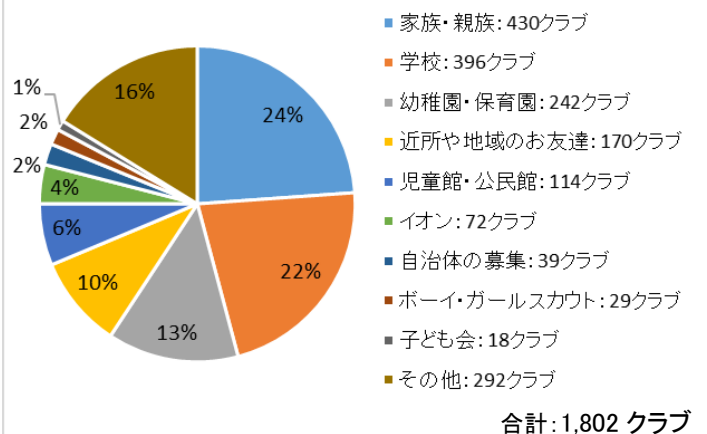
県名	クラブ数	メンバー数	サポーター数
北海道	24	686	159
青森県	34	1,801	331
岩手県	28	819	152
宮城県	11	2,310	239
秋田県	32	2,661	317
山形県	2	22	6
福島県	6	537	72
茨城県	39	2,079	336
栃木県	40	3,375	587
群馬県	39	1,353	251
埼玉県	125	14,894	2,307
千葉県	77	4,055	690
東京都	85	7,977	878
神奈川県	45	906	367
新潟県	27	1,205	127
富山県	43	1,327	209
石川県	11	382	145
福井県	33	1,738	156
山梨県	3	138	16
長野県	22	1,103	236
岐阜県	48	1,708	195
静岡県	74	3,038	600
愛知県	63	4,287	679
三重県	62	11,399	366

県名	クラブ数	メンバー数	サポーター数
滋賀県	77	4,332	372
京都府	10	236	45
大阪府	43	1,163	289
兵庫県	225	2,771	762
奈良県	8	105	64
和歌山県	4	84	25
鳥取県	59	5,464	1,886
島根県	13	515	187
岡山県	35	2,492	455
広島県	38	1,094	169
山口県	14	246	50
徳島県	3	54	14
香川県	5	87	43
愛媛県	4	66	22
高知県	12	115	73
福岡県	104	3,439	830
佐賀県	41	2,745	650
長崎県	19	932	128
熊本県	26	1,398	198
大分県	39	1,606	458
宮崎県	12	649	368
鹿児島県	20	1,111	128
沖縄県	18	582	119
合計	1,802	101,086	16,756

○登録メンバー 学年内訳



○登録クラブ形態



■平成30年度 地域事務局登録一覧（47都道府県 463市区町村）

北海道	札幌市	函館市	旭川市	室蘭市	釧路市	北見市	網走市
	苫小牧市	伊達市	石狩市	羽幌町			

青森県	青森市	弘前市	八戸市	五所川原市	十和田市	平内町	外ヶ浜町
-----	-----	-----	-----	-------	------	-----	------

岩手県	盛岡市	宮古市	北上市	遠野市	釜石市	奥州市	雫石町
	岩泉町						

宮城県	仙台市	石巻市	気仙沼市	多賀城市	利府町	女川町
-----	-----	-----	------	------	-----	-----

秋田県	秋田市	横手市	大館市	由利本荘市	大仙市	にかほ市
-----	-----	-----	-----	-------	-----	------

山形県	酒田市	新庄市
-----	-----	-----

福島県	福島市	会津若松市	郡山市	いわき市	喜多方市	相馬市	二本松市
	会津美里町						

茨城県	水戸市	日立市	土浦市	古河市	龍ヶ崎市	北茨城市	笠間市
	取手市	つくば市	ひたちなか市	守谷市	坂東市	神栖市	茨城町
	東海村	大子町					

栃木県	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	鹿沼市	日光市	小山市
	真岡市	大田原市	矢板市	那須塩原市	さくら市	那須烏山市	下野市
	上三川町	益子町	茂木町	市貝町	芳賀町	壬生町	

群馬県	前橋市	高崎市	桐生市	伊勢崎市	太田市	沼田市	渋川市
	富岡市	安中市	みどり市	榛東村	下仁田町	片品村	川場村
	みなかみ町	千代田町	大泉町				

埼玉県	さいたま市	川越市	熊谷市	川口市	秩父市	所沢市	飯能市
	加須市	春日部市	狭山市	深谷市	上尾市	草加市	越谷市
	戸田市	入間市	朝霞市	志木市	新座市	久喜市	八潮市
	富士見市	三郷市	坂戸市	幸手市	鶴ヶ島市	吉川市	ふじみ野市
	三芳町	小川町	吉見町	寄居町	宮代町		

千葉県	千葉市	市川市	船橋市	木更津市	松戸市	野田市	茂原市
	成田市	佐倉市	習志野市	柏市	市原市	八千代市	我孫子市
	浦安市	印西市					

東京都	中央区	新宿区	江東区	品川区	世田谷区	中野区	杉並区
	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区
	江戸川区	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市
	調布市	町田市	小平市	東大和市	武蔵村山市	稲城市	

神奈川県	横浜市	川崎市	相模原市	横須賀市	平塚市	藤沢市	小田原市
	茅ヶ崎市	厚木市	大和市	綾瀬市			

新潟県	新潟市	長岡市	三条市	柏崎市	十日町市	糸魚川市	妙高市
	上越市	阿賀野市	佐渡市	魚沼市	南魚沼市	粟島浦村	

富山県	高岡市	魚津市	砺波市
-----	-----	-----	-----

石川県	金沢市	羽咋市	白山市	津幡町
-----	-----	-----	-----	-----

福井県	福井市	鯖江市	越前市	坂井市	永平寺町	若狭町
-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

山梨県	甲府市	都留市
-----	-----	-----

長野県	長野市	松本市	上田市	岡谷市	飯田市	小諸市	伊那市
	茅野市	佐久市	千曲市	坂城町	飯綱町		

岐阜県	岐阜市	大垣市	多治見市	関市	恵那市	美濃加茂市	各務原市
	可児市	笠松町	垂井町				

静岡県	静岡市	浜松市	沼津市	熱海市	三島市	富士宮市	島田市
	富士市	磐田市	焼津市	藤枝市	御殿場市	袋井市	下田市
	裾野市	湖西市	菊川市	牧之原市	川根本町		

愛知県	名古屋市	豊橋市	岡崎市	一宮市	瀬戸市	半田市	春日井市
	豊川市	津島市	豊田市	安城市	蒲郡市	江南市	稲沢市
	日進市	東浦町	南知多町				

三重県	津市	四日市市	伊勢市	松阪市	鈴鹿市	尾鷲市	鳥羽市
	志摩市	玉城町					

滋賀県	大津市	彦根市	長浜市	草津市	高島市	日野町	多賀町
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

京都府	京都市	宮津市	京丹後市	木津川市
-----	-----	-----	------	------

大阪府	大阪市	堺市	豊中市	泉大津市	高槻市	守口市	枚方市
	茨木市	八尾市	寝屋川市	河内長野市	大東市	和泉市	箕面市
	高石市	東大阪市	交野市	阪南市			

兵庫県	神戸市	姫路市	尼崎市	芦屋市	伊丹市	相生市	加古川市
	宝塚市	篠山市	たつの市				

奈良県	奈良市	天理市	桜井市	斑鳩町
-----	-----	-----	-----	-----

和歌山県	和歌山市	海南市	橋本市	有田市	御坊市	田辺市	新宮市
	紀の川市	岩出市	紀美野町	かつらぎ町	九度山町	高野町	湯浅町
	広川町	有田川町	由良町	印南町	みなべ町	日高川町	白浜町
	上富田町	すさみ町	那智勝浦町	太地町	古座川町	北山村	串本町

鳥取県	鳥取市	米子市	倉吉市	若桜町	八頭町	三朝町	湯梨浜町
	琴浦町	北栄町					

鳥根県	松江市	浜田市	出雲市	益田市
-----	-----	-----	-----	-----

岡山県	岡山市	倉敷市	高梁市	浅口市	矢掛町
-----	-----	-----	-----	-----	-----

広島県	広島市	呉市	尾道市	福山市	大竹市	江田島市
-----	-----	----	-----	-----	-----	------

山口県	下関市	宇部市	山口市	萩市	岩国市	周南市	山陽小野田市
	平生町						

徳島県	徳島市	阿南市
-----	-----	-----

香川県	高松市	東かがわ市
-----	-----	-------

愛媛県	松山市	今治市	西条市
-----	-----	-----	-----

高知県	室戸市
-----	-----

福岡県	北九州市	福岡市	大牟田市	久留米市	飯塚市	柳川市	小郡市
	筑紫野市	春日市	大野城市	太宰府市	古賀市	朝倉市	桂川町

佐賀県	佐賀市	唐津市	伊万里市	武雄市	鹿島市	小城市	江北町
-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----

長崎県	長崎市	佐世保市	諫早市	大村市	平戸市	南島原市
-----	-----	------	-----	-----	-----	------

熊本県	熊本市	八代市	人吉市	荒尾市	水俣市	山鹿市	宇土市
	上天草市	天草市	南小国町	益城町	山都町	芦北町	あさぎり町

大分県	大分市	別府市	日田市	佐伯市	杵築市	宇佐市
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

宮崎県	宮崎市	都城市	延岡市	五ヶ瀬町
-----	-----	-----	-----	------

鹿児島県	鹿児島市	鹿屋市	指宿市	日置市	霧島市	奄美市	始良市
	大崎町	瀬戸内町					

沖縄県	那覇市	浦添市	沖縄市	宮古島市	金武町	与那原町	南風原町
	八重瀬町	竹富町					

●エコ活コンクール 受賞作品

■壁新聞部門

環境大臣賞

文部科学大臣賞

消費者庁長官賞



タイトル:「世界一楽しいのはエコクラブ」
香美市子どもエコクラブ みどりサイクル
(高知県香美市)



タイトル:「エコ通信 釧路湿原から
2018」
子どもエコクラブくしろ(北海道釧路市)



タイトル:「子どもツリズム・エコ株式会社
設立2018 ~エコ主を増やすっ
ちゃん大作戦~」
だいやエコクラブ(長崎県佐世保市)

日本環境協会賞

三井住友銀行賞

エコマーク賞



タイトル:「『水・食・命のつながり』
を人から学ぶ」
京都アイキッズ(京都府京都市)



タイトル:「私たちの学びの場
in いそやま」
真岡児童館 やさしクラブ
(栃木県真岡市)



タイトル:「考えてみよう!! リサイクル」
しのつちよ・パレーヌ(兵庫県神戸市)

地球のワクワク！ 発見しよう

こどもエコクラブ

私が主役！ なかまと一緒に未来をつくる

こどもエコクラブは、子どもたちが地域で行う継続的な環境活動・学習のクラブです。仲間と一緒に、身近な場所で活動を積み重ねながら、自主的に人と環境とのかかわりを学びます。

■子どもたちの「ワクワク！」を応援します

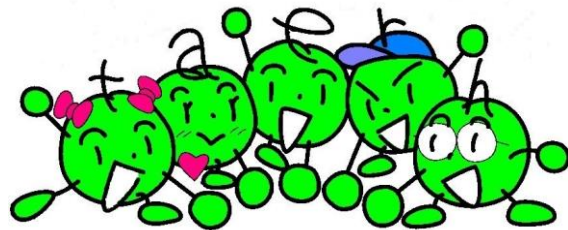
子どもたちが、自然への興味関心をきっかけに、自然を守ることが地球にとって大切なだけでなく、人間の生活にとっても大切であることを知る環境活動・学習を支援します。身の回りの自然からさまざまな発見をし、他の生物同様、生態系の一部である人間の生活に応用することができる。そんな能力を身につけながら育ちます。

■子どもたちの「生きる力」を育みます

子どもたちが、エコ活動の意味を本質的に理解できる機会をつくと共に、なかまと一緒に活動することを支援します。身の回りの出来事や定見から、現在の社会とのギャップを自ら見つけ出すことで、未来の理想的な社会と将来の自分を重ね合わせ、社会的な課題を解決できる大人になる。そんな大きな目標を心に宿して育ちます。

■子どもたちの「地域を愛する心」を培います

子どもたちの、身近な地域の身近な自然を大切に思う、思いやりの心を育むことを支援します。身の回りの自然からの発見を重ねることで、感受性豊かな子どもたちは、自分のまちのすばらしさを感じ、探求し、愛し、主体的に守ろうとする。そんなまちの博士へと育ちます。



公益財団法人日本環境協会

こどもエコクラブ全国事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-10-5

TMMビル 5階

TEL 03-5829-6359 E-mail j-ecoclub@jeas.or.jp